令和７年５月２日
名古屋地方気象台

東海地方の天候（令和７年４月）

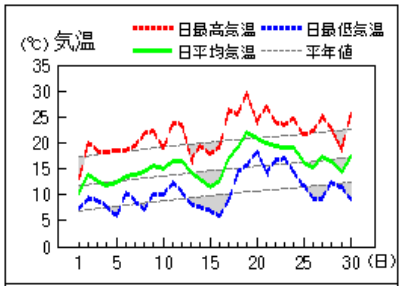
１　概況

天気は数日の周期で変わりました。中旬には低気圧や前線の影響で大雨となった日もありました。寒気の影響を受けた時期もありましたが、中旬の終わり頃から下旬にかけて南高北低の気圧配置となって高気圧の縁を回り暖かい空気が流れ込みやすくなるなど、月平均気温は高く、４月として日最高気温の極値を更新した地点もありました。

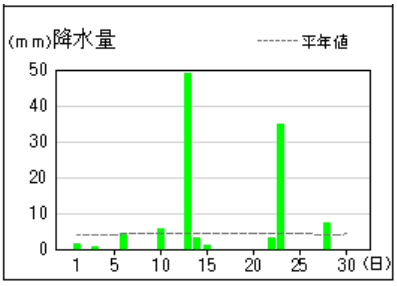
月平均気温は「高い」、月降水量は「平年並」、月間日照時間は「平年並」となりました。

旬ごとの概況	
上旬	天気は数日の周期で変わり、高気圧に覆われて晴れた日が多くなりましたが、旬のはじめや中頃などに低気圧や前線の影響で曇りや雨となった日もありました。 旬の平均気温は「平年並」、降水量は「平年並」、日照時間は「平年並」となりました。
中旬	天気は数日の周期で変わりましたが、１３日には南岸低気圧や前線の影響で暖かく湿った空気が流れ込み広い範囲でまとまった雨となり、伊良湖などで４月としての日降水量の極値を更新するなど大雨となった所もありました。このため、旬降水量は多くなりました。また、旬の後半を中心に暖かい空気が流れ込みやすかったため、旬平均気温は高くなりました。 旬の平均気温は「高い」、降水量は「多い」、日照時間は「平年並」となりました。
下旬	天気は数日の周期で変わり、高気圧に覆われて晴れた日が多くなりましたが、旬のはじめと終わりに低気圧や前線の影響で曇りや雨となった日がありました。旬の前半は暖かい空気が流れ込みやすかったため、旬平均気温は高くなりました。 旬の平均気温は「高い」、降水量は「平年並」、日照時間は「平年並」となりました。

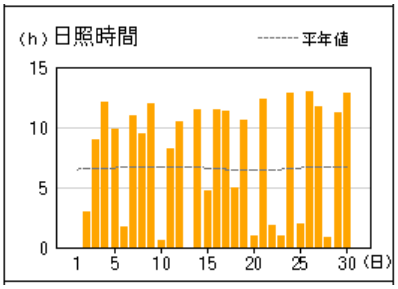
参考　時系列図（名古屋地方気象台）



最高・最低気温(太破線)、平均気温(太実線)と平年値(細破線)℃



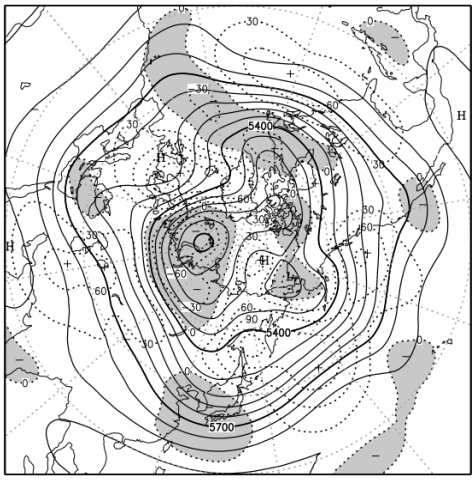
降水量と平年値(破線)mm



日照時間と平年値(破線)h

２　大気の流れの特徴

４月の500hPa天気図（高度・偏差）と解説



等値線間隔　実況（実線）60m、偏差（破線）30m
陰影域は負偏差

寒帯前線ジェット気流が東シベリアで北に大きく蛇行して流れ、亜熱帯ジェット気流が東シナ海付近で南に蛇行して流れました。このため、500hPa高度では北日本は正偏差となって寒気の影響が弱くなり、沖縄・奄美を中心に負偏差となって寒気の影響を受けやすくなりました。

また、ジェット気流の蛇行に伴い中国東北区から日本海にかけて偏西風が弱く、北日本を中心に偏西風から切り離されて動きの遅い低気圧の影響を受けた時期がありました。

３　各地の気象台・特別地域気象観測所の実況

地点名	平均気温（℃）	（平年差）（℃）	階級	降水量（mm）	（平年比）（%）	階級	降水日数 ≧1mm	日照時間（h）	（平年比）（%）	階級
静岡	16.0	(+0.8)	＋	148.0	(67)	－	12	188.2	(99)	○
浜松	15.9	(+0.9)	＋	191.0	(107)	○	10	201.8	(101)	○
御前崎	15.6	(+0.9)	＋	213.0	(106)	○	9	203.5	(101)	○
三島	15.8	(+1.2)	＋	105.0	(69)	－	11	180.0	(99)	○
石廊崎	15.6	(+0.7)	＋	130.5	(86)	○	10	189.2	(98)	○
網代	15.5	(+1.0)	＋	177.0	(105)	○	12	184.6	(105)	○
名古屋	15.7	(+1.1)	＋	110.5	(87)	○	9	222.1	(111)	＋
伊良湖	15.3	(+1.0)	＋	184.0	(133)	＋	9	227.8	(113)	＋
岐阜	15.5	(+1.0)	＋	187.5	(115)	＋	8	219.5	(110)	＋
高山	11.0	(+1.3)	＋	72.0	(58)	－	12	184.9	(107)	＋
津	15.2	(+1.0)	＋	102.0	(79)	－	9	221.2	(115)	＋
上野	13.9	(+1.2)	＋	74.0	(71)	－	9	201.7	(115)	＋
尾鷲	15.7	(+1.0)	＋	146.0	(49)	－	10	201.9	(106)	○
四日市	14.5	(+1.2)	＋	184.5	(120)	＋	8	215.6	(114)	＋
東海地方	----	(+1.0)	＋	-----	(89)	○	--	-----	(107)	○

注）1. 平年値は1991～2020年の資料から求めた。
2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。
＋:高い（多い）　○:平年並　－:低い（少ない）
各階級の区分値は、1991～2020年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる（各階級が10個ずつになる）ように決めた。また、値が1991～2020年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には階級の「＋－」に＊を付加した。この場合には以下のように表現できる。
かなり高い（多い）　かなり低い（少ない）
3. 値の横に ）や ］ がある場合は、月別値を求める際に使用したデータ（日別値）に欠測等が含まれていることを示す。）付きの値（準正常値）は通常のものと同様に扱うことができる。］付きの値（資料不足値）については、統計に用いる観測資料数が不足しているため、値の下に記載した統計日数（統計に用いた、品質が十分な日別値の数）を参考にするとともに、階級についても値と同様の品質であることに留意して使用されたい。なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

４　令和７年（2025 年）４月の順位更新表

東海地方の気象台・特別地域気象観測所における４月の月平均気温・月降水量・月間日照時間の３位以内の順位更新はありませんでした。

参考資料　平年並の範囲（東海地方）

４月	平均気温平年差	降水量平年比	日照時間平年比
上旬	-0.3 ～ +0.3℃	44 ～ 118%	86 ～ 117%
中旬	-0.7 ～ +0.7℃	65 ～ 115%	87 ～ 115%
下旬	-0.6 ～ +0.5℃	65 ～ 141%	88 ～ 113%
月	-0.4 ～ +0.4℃	89 ～ 111%	93 ～ 108%

資料の解説

・当資料に掲載されている天候の特徴や統計値は、現時点で得られている資料を取りまとめた速報です。

・「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の階級は、1991～2020 年における 30 年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる（各階級が 10 個ずつになる）ように決めています。また、値が 1991～2020 年の観測値の下位または上位 10%に相当する場合には、「かなり低い（少ない）」「かなり高い（多い）」と表現します。